

ろく たん だ み な み い せ き
六反田南遺跡

現地説明会
 資料

平成25年11月9日
 国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所
 新潟県埋蔵文化財調査事業団
 県吉田建設

遺跡の概要

六反田南遺跡は、糸魚川市大和川字六反田地に所在します。遺跡から海岸線までは直線距離で北に200mほどであり、海川下流右岸の標高3.5~6.0mの沖積低地に立地しています。

発掘調査は、北陸新幹線及び一般国道8号糸魚川東バイパス建設に先立ち平成18年から行っており、今年で8年目となります。

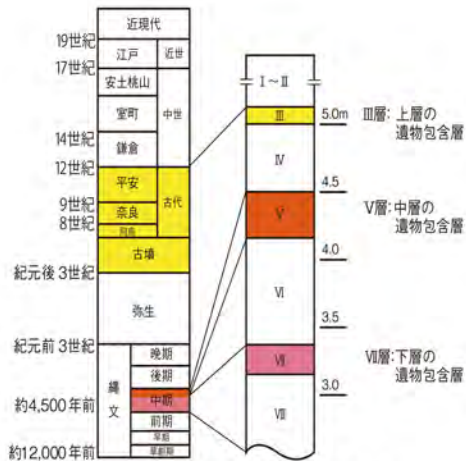
これまでの調査で、本遺跡は縄文時代中期から近世まで断続的に続き、縄文時代中期前葉~中葉・中期中葉、古墳時代前期・後期、古代に集落が営まれたことがわかっています。県内の縄文時代中期の遺跡としては、珍しい低地集落であることが明らかとなり、また縄文時代には磨製石斧製作関連、古墳時代には玉作関連の遺物が多く見つかっています。



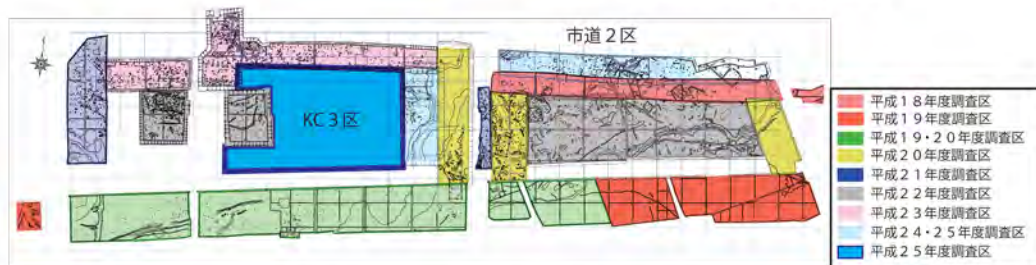
六反田南遺跡の位置

基本層序

- I層 現代の水田
 - II層 中世~近世の遺物包含層
 - III層 古墳時代・古代の遺物包含層
 - IV層 洪水堆積層
 - V層 縄文時代中期中葉の遺物包含層
 - VI層 洪水堆積層
 - VII層 縄文時代中期前葉~中葉の遺物包含層
 - VIII層 洪水堆積層
 - IX層 れき層
- ★今見えている面がVII層で、約4,500年前の地面です。



基本土層模式図と歴年代比較表



平成18~25年度までの調査区配置図

上層の調査 (古墳時代~奈良・平安時代：1700~1200年前) ※発掘調査は終了しています。

KC3区

標高は約5mで、西から東へ微高地から低地へと移行する地形の変換点にあたり、見つかった遺構や遺物がこれまでの調査より少ないことから遺跡の縁辺部と考えられます。遺構は、墓の可能性のある古墳時代の周溝状遺構や溝、土坑が調査区東側で、奈良・平安時代の竪穴住居や掘立柱建物、溝、土坑、ピットが調査区北西でまとまって検出されました。これまでの調査成果を考慮すると、時代により生活の場を変えていたと考えられます。



上層完掘状況 (上空から)



奈良・平安時代の掘立柱建物群 (西から)

中層の調査 (縄文時代中期中葉：4500年前) ※発掘調査は終了しています。

KC3区

遺構、遺物は調査区西側に集中します。遺構は、竪穴住居・土坑・柱穴などが見つかりました。竪穴住居は5棟検出されており、すべてに石組炉が伴います。そのうちの2棟は、石組炉が重なるように見ついていることから、建て替えている可能性があります。遺物は土器・石器があります。土器は下層出土のもの(上山田・天神山式)に後続する古府式を中心に、東北系・中部高地系があります。石器は蛇紋岩製の磨製石斧の製品・未製品が多いことから、遺跡内で製作していたものと思われます。下層が洪水により埋没してほどなく、この地に再度集落を構えていることは、特筆できます。



調査区西側全景 (北から)



竪穴住居 (南から)